

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第70号 2016年3月

発行人：吉田 博行 編集長：地田 博昌 事務局長：安藤 孝

事務局：〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

2016 年新年会を開催

2016年目黒稲門会新年会は、1月17日(日)午後4時から目黒雅叙園にて開催され、会員・ご家族67名、来賓4名、チアリーダー2名、招待現役学生2名、計75名が参加した。

笠谷興一郎幹事の司会で、第1部講演会では、岩崎 巖様(昭24政経)を招いて、「歌と人と一応援歌・学生歌を作詞してー」と題した講演が行われた。『ひかる青雲』と『早稲田の栄光』に付き、時代背景やエピソードを織り交ぜて話して頂いた。特に、戦地から帰られた復員学生達が歌った慶応の応援歌は、生きていることの喜びを歌い上げていること。それに対抗する早稲田の歌を、軍歌調でなく、早稲田の森に青春を捧げた誇りの歌、血潮たぎる歌にしたこと。などなど、1時間に渡る熱弁だった。(詳細は次号に掲載予定)



講演の余韻の残る中、来賓の竹沢応援部監督、現役チアリーダー2名(安田愛さん、牟田真緒里さん)のリードで、『ひかる青雲』を全員で斉唱した。言葉の一つ一つを噛みしめ、青春を思い、涙の込み上げる感動の場面だった。講師を囲んで関係者の記念撮影が行われ、暫し休憩の後第2部懇親会に入った。



再び笠谷幹事の司会で、吉田会長から挨拶があった。

(会長挨拶)



「明けましておめでとうございます。」

昨年は、嬉しい話題、暗い話題と各方面でいろいろありました。その中でスポーツ界は心踊るニュースが続きました。

今年はオリンピックの年です。東京オリンピックの前哨戦として日本選手の大きな活躍を期待したいところです。

目黒稲門会におきましても、会員の皆様とともに日本選手団の活躍を応援しつつ、大いに稲門会ライフを楽しもうではありませんか。囲碁・カラオケ・食歩歩き・ゴルフ・ウォーキング・麻雀・美術歴史鑑賞・旅行・若木会・俳句・ボランティア・早稲田スポーツ観戦・さん月会の13の部会と広報委員会が各部会長のご尽力の下で活動しています。

本年はそれぞれの部会のさらなる充実を目指して行きます。まだ参加されていない皆様の参加をお待ちしています。

母校早稲田大学は2032年の創立150周年へ向けた将来計画“WASEDA VISION150”に基づいて、大胆な改革戦略とプロジェクトを進めています。その一環として2019年に新記念会堂(仮称)をスポーツミュージアムや学習スペースなどを併設した記念会堂の伝統を引き継ぎ最新の多機能型スポーツアリーナとして建設します。旧記念会堂は1957年に母校創立75周年を記念して竣工し、58年もの間、正規授業や体育各部の活動場所とし、また入学式や卒業式の会場として、そして東京オリンピックでフェンシングの競技会場として利用されたことは皆様もご記憶かと存じます。

目黒稲門会は、このような母校の活動を出来る限り支援してゆきたいと思います。会員とご家族皆様

の一層のご理解とご協力をお願い致します。

最後に、本年が平穏で、明るく健康な、素晴らしい年になることを心からお祈り致しまして年頭の挨拶とさせていただきます。」

次いで、来賓の青木目黒区長から挨拶があり、村山 弘幹事の発声で乾杯、歓談となった。

歓談中、現役学生が紹介され、前田 眸さん(社会学部2年)、小山美穂さん(文学部1年)から挨拶があった。



安藤事務局長からは、ボランティア活動への賛助要請があった。

新年会の締めくくりは、応援歌・学生歌の大合唱。竹沢監督、チアリーダー2名のリードで『精悍若き』『早稲田の栄光』、そして大きな輪になっての校歌斉唱。参加者を代表して竹沢監督より岩崎氏に花束の贈呈があり、感動の連続のうちに中締めとなった。

中締め挨拶は、佐久間 喬幹事。参加者、講師への謝辞を述べ、予定時間通り閉会となった。

(田島 記)



新年会出席者(敬称略、五十音順)

(来賓)

青木英二・目黒区長、岩崎 巖・講師

岩崎彰夫・講師ご子息 竹沢久喜・応援部監督
(チアリーダー)

安田 愛(教育学部3年)、牟田真緒里(文化構想学部1年)
(招待現役学生)

前田 眸(社会学部2年)、小山美穂(文学部1年)
(会員・ご家族)

朝比奈義雄、荒瀬修一郎、安藤 孝、安藤虎雄、
安藤嘉昭、石川智子、伊藤 悠、猪名川一雄、
猪名川令夫人、井村正陽、岩佐好恭、岩崎春雄、
岩崎正夫、岩田 修、鷗野洋治、海口昭治、
大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、
大野利幸、尾崎 充、笠谷興一朗、梶 恵作、
金井豊男、狩野俊夫、川井信義、菊地崇之、
小池早苗、郡山弘文、郡山令夫人、小杉 哲、
後藤克彦、佐伯文子、佐久間 喬、嶋田勝彦、
島田久家、高野 孝、高橋圭吾、田島順一郎、
田添麻友、田畑 繁、地田博昌、千野逸平、
手塚仁雄、外岡 明、外岡令夫人、中上美代子、
永田耕治、中西元樹、服部尚彦、林田雅敏、
細谷 清、牧野武夫、松田哲也、丸山忠生、
宮村直身、村上 柁、村山 弘、保井 正、
山口優幸、横山 大、吉田博行、吉田令夫人、
吉野博明、吉本政治、吉本令夫人

谷保天満宮のこと－学生の頃



林田雅敏（昭和31年 商）

昨年の夏はすごい暑さで大変だった。以前から行こうとしていた高校時代の友人の家に、この暑い中元気を出して出掛ける。東京都の中でも飛びきり暑い練

馬区石神井公園のそば、よく晴れた日の午後2時頃。彼とは何となく話の合う仲間、一緒に私の好きな音楽を聴きに行くとか、山登りをするとかでなく、とりとめのない話をしながら学校に近い彼の家に就いていってしまうという間柄。小学校の先生で、校長先生もしたが退職後、咽喉の手術をして食べ歩きが出来ず、彼の家に行くことにした。話が進んだところで、彼が最近持ち物整理をしていたら昔の手紙がごそっと出てきた。君のものもあるよ、今日持って行けと出してくる。葉書16通もあり頂いて帰る。

帰宅してから葉書を読む。高校3年の頃から早大卒業後半年間位アルバイトをしながら就職するまでのものだ。読んでいるうちに学生のころの思い出が蘇る。その中に早大3年の時に一般教養科目で歴史を受講したが、夏休みの宿題に「自分の郷土の歴史を作る」というのが出た。その様子を書き送った一通があった。

中学校2年から就職する1日前までは国立に住み都内の学校に通学していた。歴史のレポートを何にするか色々迷ったが、高校3年の夏父親が急死し、衣食住、学費を賄うためのアルバイトは片手間では間に合わず、夜キャバレーのタンゴバンドでヴァイオリンを弾くことになってしまう。

午前10時から11時の授業で午後3時か4時に終わる（商学部なので1時間授業）。朝8時頃家を出て夜1時頃帰宅、それにサマーセッション（学校の補修授業）と、これをやりながらのレポート作り、有名な天満宮に決定した。

その時の様子が葉書に書いてあるので一部を抜粋して書くことにする。郵便局のスタンプは昭和29年9月6日とある。

『小生、谷保に鎮座します天満宮に、4、5日前からレポート書きの史料参観に午前10時より午後4時乃至6時頃まで行っています。そして今日はここ古文書、重要品、宝物等々その大部分を見せてもらいましたが、何しろ小生の頭では古文書はからっきし読めないのが大弱りです。申し遅れましたが、ここは天暦元年（947年）村上天皇の御代に建った古い神社で、村上天皇から送られた狛犬（どうも鎌

倉時代のもらしい）、御宇多天皇奉納の天満宮扁額、源義経の大般若経（弁慶等連書）等の宝物があります。文化の頃、社務所が焼け古文書の大部を灰にしてそれ以降はこの別当寺の安楽院という寺にあった宝物だけが史料で、未だこの歴史を書いた人のない所だそうだ。』

祭神は菅原道真と第三子道武。道武は父が延喜元年（901年）太宰府に左遷の折、同時に多摩分倍庄栗原郷に配流される。延喜3年（903年）父薨去の報に、道武は父君の像を刻み天神島（現府中市）に鎮座したのが谷保天満宮の起こりである。養和元年（1181年）道武の子孫津戸三郎為守（武蔵国御家人）が現在の地分倍庄栗原郷（現国立市）に遷す。同年別当寺の安楽寺を建立。

主な社宝は、天暦元年（947年）村上天皇より奉献の木彫「狛犬一對」（重要文化財）、建治3年（1277年）奉納の「天満宮」扁額（昭和25年国宝より重要文化財に指定替）、源義経他書写「大般若経」等。

天満宮のレポート書きでは、津戸最（ツド・マモル）宮司62代（現64代）で、丁度宝物を社務所で陰干し中で手にとって説明されました。安楽寺墓地（天満宮の近所）にも案内され、2代目からあるという代々の宮司の墓を5代目位まで墓碑を写した。安楽寺は明治初年神仏判然令により習合を廃止、廃寺となり仏教的色彩の建物や建物が焼かれたと云われている。墓地は共同管理組合が管理している。

レポート書きは宝物とお墓の史料がほとんどで穴が埋まらず、苦勞して提出締切日朝までかかり作成、コピーを書く時間も無く提出し、残念だが返ってこなかった。

目黒稲門会のウォーキング部会で平成26年5月20日に第78回「昭和記念公園・谷保天満宮を歩く」に参加し、天満宮の境内で参加者に説明をしたが、歴史の他に調べた史料の中にあった谷保の地名についての話もした。その昔は野暮（ヤボ）だった。

甲州街道を行く旅人が早朝新宿を発って、天満宮近辺で日が暮れたのでヤボになると書いてあった。それが昭和25年過ぎにヤボになった。私が住んだ昭和26年頃は、まだ北多摩郡谷保（ヤボ）村字国立中区という現住所であった。ウォーキング部会で行った時、谷保天満宮前の甲州街道の道路標識はローマ字でYABO、南武線の駅名はYAHOだった。



ゴルフを止めて想うこと



加藤榮護(昭和31年 理工)

この原稿は目黒稲門会の吉田会長から、昨年の秋口に要請があったもので、「ゴルフを止めて」の感想を書けと云う話であった。

小生は2004年から2008年までの4年間、眞仁田氏の後を引き継いで目黒稲門会の会長を務めた。その間、毎月随筆を書き続け、約50編の内容は創立15年記念に加藤榮護随筆集としてまとめられた。ところが、最近は全く文章を書かなくなっている。

昨年9月、84歳の峠を越えた頃から疲れが強くなってきて、すべてが面倒になってきたのも事実だ。10月には、心臓血管研究所付属病院で4年前の心臓の手術の後をチェックしようと指示を受け入院した。カテーテルを足の付け根から、心臓に突っこんでの検査で、2泊3日久しぶりの入院生活を送った。結果は異常なしだったが、止血の為に5時間の安静を強いられて、いささか草臥れ果ててしまった。

さてこれからゴルフの話だが、昨年6月末、相模カンツリークラブを退会した。相模に入会したのは富士通退社後の平成9年で、社用族を卒業して、全く個人会員としての出発であった。わずか18年間のクラブ生活だった。

それ以前の富士通時代は千葉の総成カンツリー、東急セブンハンドレッド等でプレイしていた。

相模カンツリーは昭和6年にスタートした名門である。入会するには関門があったが、富士通時代に親しくして頂いた、本田技研で副社長を務められた宮田 勝氏の熱心なお勧めがあり、その他多くの方々の推薦をうけた。

相模カンツリーは田園都市線の終点、中央林間駅から500メートル位の、山坂のない平地にあり、カート無、すべて徒歩で18ホールを廻らなければならない。唯、昔からの伝統で、誤解を招くような言葉だが男尊女卑のところが残っている。それは、女性は正会員には成れず、平日会員になる。従って、女性は日曜日ゴルフ場に入れない。

ある時、家内はメンバーではないが、ゴルフ場に行ったら、クラブの玄関窓口に入ることを許されなかった事がある。昭和初期からの伝統であろう。

目黒稲門会の永田耕治氏が相模のメンバーで何度か一緒に楽しんだ。吉田会長と一緒に回ったとき、小生は疲れてしまい、最後の数ホールをショット無しで唯歩いて周った。その間吉田会長に色々余計なアドバイスをしながら、最後までやっと思いで

あった。自分の歳を思い知らされた時であった。

メンバーに成った頃は、このゴルフ場の傍に家を持ちたいと思ったこともある。

緑に囲まれた素晴らしいゴルフ場も今は、住宅、マンションに囲まれて、打ったボールが外に出ないように高い塀で囲まれてしまっている。

しかし、ゴルフを止めてしまったの反省だが、やはり自分の積極性の無さに自滅の道を歩み始めた事だ。疲れたから止める、歩かないと、益々足腰が弱くなる。人はこうやって歳をとりすぎる結果となる。再起の道はないのか？

そこで小生は今プールに切り替えている。週に数回はクロールで数百メートルを泳ぎ健康を保っている。やはり逃げてはだめだと云う事を思い知らされた。諸兄姉も挑戦して行かれんことを期待したい。一蛇足—

さて最後に富士通時代に、富士通レディースで多くの女子プロと知り合いになった。小生は数年間、富士通の国内営業部門の責任者として一緒にプレイした。森口裕子選手と一緒にプレイした時の彼女の適切な指導には感心させられた。あれ以来、女子プロと云えば何時も彼女の事を思い出す。

また、当時一緒に回った女子プロのサインを貰った帽子約10個を今も大切に保管していたので、これを目黒稲門会の会員の希望者にあげようと思って蓋を開けてみたら、カビは生えていないが、相当に焼けているので、諦めることにした。

各部会からの案内・報告

カラオケ部会

12月の定例会は忘年会シーズンと重なり、常連さんに加え久しぶりに多くの方に参加していただき総勢17名。歌も古今東西、多種多様、大いに盛り上がり、定刻終了の19時になったところで40曲程度を歌い終えました。最後に全員起立して校歌斉唱、そしていつもの名幹事役がパフォーマンスよろしく、フレー、フレーの締めくくりで解散となりました。

まだ歌い足りず、飲み足りなかった数名が近くのカラオケバーに繰り出し、忘年会を兼ねて2次会を開催。こちらは参加9名でした。まさに歌は健康、若返りの源です。

わがカラオケ部会は味のある歌声で満ちています。TVでアカペラおじさんと紹介され美声を披露した方、合唱サークルで活躍される方、90歳を過ぎて元気な歌声を聴かせてくれる方、透き通るようなソプラノボイスを持つ方、持ち歌曲数が220を超える方など様々なメンバーが集まり楽しんでいます。

カラオケ部会長 梶 恵作

ウォーキング部会

今年の気候は暖かかったり寒かったり皆様の体調はいかがでしたか。体調を整えて皆様と一緒に春のウォーキングを楽しみましょう。初参加、女性の方大歓迎です。

活動報告と今後の予定をお知らせいたします。

実施報告

12月例会 鎌倉三十三観音巡り 参加17名

1月例会 新宿区七福神巡り 参加16名

2月例会 古墳群のロマンを刻む 参加16名

本年は、1月5日(火)に恒例になってきた七福神巡りをもってスタートしました。亀戸、山手、港に続いての新宿山の手七福神巡りです。

当日は天候に恵まれ、また、気温が14℃で無風と暑いくらいでした。JR飯田橋駅に16名が集合し、神楽坂の善国寺(毘沙門天)を皮切りに都営大江戸線に沿って経王寺(大黒天)、巖嶋神社(弁財天一通称抜け弁天)、法善寺(寿老人)、永福寺(福祿寿)、鬼王神社(恵比寿神)と東新宿まで進み、最後に新宿2丁目の太宗寺(布袋尊)まで2時間半、約1万歩と通例の部会よりは多めの距離となりました。

元気な80代が3名も参加されての反省会は大いに盛り上がりました。(村山 記)



今後の予定

3月例会 尾根古道を歩くと鶯の声

日時 3月15日(火) 午後1時

集合場所 京王相模線若葉台駅改札外

4月例会 歴史や文化の散策 西池袋

日時 4月19日(火) 午後1時

集合場所 東京メトロ副都心線要町駅改札外
3番出口側

5月例会 小手指ヶ原古戦場と狭山湖

日時 5月17日(火) 午後1時

集合場所 西武池袋線小手指駅改札外

小雨決行 参加される方は下記まで連絡ください。

牧野携帯 090-9649-6868 tamakino@ozzio.jp

ウォーキング部会長 牧野武夫

食べ歩き部会

1月28日(木)に神田錦町の「南部どり はなれ」で、「銘酒・南部美人と南部地どりを楽しむ夕べ」を開催しました。

最初に岩手県二戸町の酒蔵・南部美人から差し入れされた梅酒で乾杯しました。通常の梅酒は砂糖が7割含まれているそうですが、この梅酒は糖類無添加でさわやかな甘さです。一升瓶でしたが、瞬間に飲んでしまいました。

続いて、これも差し入れされた「純米 南部美人」を台東区の本本硝子が日本酒の香りを楽しむために製造したグラスで常温でいただきます。上がすぼまったワイングラスのようなグラスです。南部美人はフルーティーで、飲み口がすっきりしたお酒でした。お料理も、焼き鳥、手羽、鶏鍋と皆さんから「おいしい、おいしい」との声が相次ぎました。

結局、この日は梅酒を含めて四升近いお酒を飲んでしまい、二次会へ行く元気はなく、本本硝子のグラスと鶏のコラーゲンから作られた化粧品を土産に帰途につきました。参加者は12名でした。



食べ歩き部会長 猪名川一雄

麻雀部会

2月15日(月)12時半より、定例麻雀会を武蔵小山「サン」にて開催。

4月9日(土)12時20分より、世田谷・目黒2区第40回麻雀大会が用賀「鈴家」で開催されます。幹事は目黒です。この大会が最後の親善2区大会となります。

武蔵小山での目黒定例会には、皆様是非奮ってご参加下さい。

麻雀部会長 鵜野洋治

美術・歴史鑑賞部会

第55回は11月11日(水)、丸の内にある三菱一号館美術館入口に10時集合で『プラド美術館展—スペイン宮廷美への情熱—』を鑑賞。

スペイン・マドリードのプラド美術館は15世紀以降、歴代のスペイン王たちの情熱と嗜好によって集められた作品群で有名です。スペイン3大画家エル・グレコ「受胎告知」、「エジプトへの逃避」やフランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス「傷を負った石工」とエウヘニオ・ルーカス・ベラスケス「魔女の夜宴」等の代表的作品を楽しみました。

その他には、ヒエロニムス・ボス「愚者の石の除去」やペーテル・パウル・ルーベンス「アポロンと大蛇ピュトン」が印象に残りました。

参加者13名で美術館裏のビルにある中華料理店で昼食をとり解散しました。

第56回は11月20日(金)、参加者9名で文京区目白台にある永青文庫で『春画展』を鑑賞しました。菱川師宣、鈴木春信、鳥井清長、喜多川歌麿、葛飾北斎等の春画作品の多さに驚きました。

昼食は早稲田大学の食堂でカレーライスを堪能して解散しました。



美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦

囲碁部会

平成27年12月5日(土)に第54回オール早慶囲碁大会が市ヶ谷日本棋院で開催された。参加者は200名。結果は早稲田99勝、慶応92勝で早稲田が勝利を収めた。稲門会からの参加者は56名で、目黒稲門会から1名(保井 正)が参加した。

平成27年12月7日(月)に忘年囲碁大会が下目黒住区センターで開催された。Aクラスは杉山泰大氏、Bクラスは郡山弘文氏、Cクラスは大内秀明氏が優勝しました。大内さんの健闘が光りました。

なお、平成28年1月より例会開催日が、毎月第3金曜日に変更になりました。

囲碁部会長 保井 正

早稲田スポーツ観戦部会

12月6日(日)、秩父宮ラグビー場で行われた伝統の関東大学ラグビー対抗戦早稲田大学—明治大学を17名の会員と応援観戦に行きました。

今シーズン調子の上がない早稲田、一方同率優勝のかかった明治、戦前は圧倒的明治有利の評価でしたがさすが伝統の一戦、執拗なモール攻撃で明治を苦しめ、結果は24-32で惜敗、最後まで見応えのある戦いでした。

試合終了後、明治の優勝を称え早稲田の来期の奮闘を期待しながら校歌を唄いエールを交換しました。

その後渋谷の中華料理店で今年の反省と来年の早稲田スポーツ全体の奮起を願い、美味しいお酒をたっぷりとお楽しみしました。



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

若木会

12月6日(日)、チャペ目黒通り店にて目黒の早稲田・慶応若手の交流会である第4回「大福会」を開催いたしました。

早稲田側は現役学生も含め総勢9人、慶応側は4人の参加となり、総勢13人での開催となり、それぞれの近況の確認や、それぞれの母校のこれからを活発にお話ししました。第2回大福会では早慶のカップル誕生のきっかけになり、様々な機会を生む場として、今後も活発に活動を盛り上げていき、将来的には若手に加えて先輩方も交えた形での開催を計画したいと思います。

この会を含めた若木会の活動で、より目黒稲門会の活発化、地域の活発化を目指し頑張っていきます。

なお、若木会次回の活動は毎年恒例の【お花見会】です。皆様のご参加をお待ちしております。

・3月26日(土)

・花 見：16時 中目黒 TSUTAYA 前集合

・食事会：17時～19時

ティ・ピッキオ(イタリアン)

若木会部会長 中西元樹

旅行部会

「出雲大社初詣の旅」道中記

旅行部会は1泊2日で出雲大社初詣と足立美術館を訪ねる旅を会員とその家族12名でクラブツーリズムの一部買い取りで実施しました。

1月24日(日)～25日(月)は何十年振りの大寒波が予想され、特に西日本の日本海側は大雪をとまなう大暴風雨になるとテレビ、新聞は大騒ぎしておりました。前日には私もツアーキャンセルになるかと覚悟を決めておりましたが、集合場所に行ってからでなくては状況は分かりません。参加者全員がそう思っただけの出発当日の24日でした。

経由地の岡山へ着いてからもこの心配から逃れられませんでした。ところが「あにはからんや」、必要な時はいつも晴れ、その上、翌日の帰京便も出雲からの直行便となり、時間の余裕と早く帰れる「運」の強さを全員が持てた旅でした。

1月24日(日)

午前11時、日本航空233便にて経由地岡山へ出発。12時20分着後、他の参加者27名と合流し、バスツアーがスタートしました。

最初に目指すは鳥取砂丘。山陽道、鳥取自動車道経由で3時過ぎ着。長靴に履き替え寒風吹きささぶ日本海を見ながらの「鳥取砂丘」見学は顔が冷たさに痛く感じました。



(雪の鳥取砂丘)

見学後、夕食のため兵庫県浜坂漁港へ。雪道により30分の道を80分かかっての到着。

料理屋の一階は売店となっており、松葉ガニが1杯8,000円から10,000円で売られているのを見て、これからこれを食べるのかと思うと心躍るばかりであった。

料理は「松葉ガニのフルコース」プラス「鮑の踊り焼き」に、全員カニを贅沢に食べつくして大の満足。夕食後、雪道を90分かけて「名湯三朝温泉」へ。三朝ロイヤルホテル泊。

1月25日(月)

7時45分ホテルを出発。山陰自動車道へ出るまでは雪道をそろりそろりと運転。安来市出身の足立全康創設の「足立美術館」まで2時間の行程。

美術館は旅の目玉でもあり日本一の枯山水庭園は雪景色に感嘆するばかり。横山大観、川合玉堂、上村松園をはじめ近代日本画壇の巨匠たちの作品や、北大路魯山人、河井寛次郎らの陶芸作品に息をのむばかりで70分の見学時間はあまりにも短い時間でした。



(雪の足立美術館庭園)

見学後、山陰道をさらに一時間、宍道湖を右の車窓に見ながらツアー最大目的地「出雲大社」へ。途中、添乗員より帰路は出雲空港からとのことに全員大喜び。大社参拝を案内人とともに無事済ませた後は約2時間の小雪舞い散る自由時間を食事に、買い物にと大いに楽しむことができました。

再び中国山地を山越えかとちょっと暗い気持ちだが、空港まで40分と「ラッキー」な気分になり、全員ウキウキとなりました。また、空港でのお土産時間をとることも出来ました。

午後4時30分発 JAL284便にて帰京。6時過ぎに羽田空港着後解散。

心配をよそに「結果オーライ」の旅を楽しむことが出来ました。



(出雲大社本殿前)

旅行部会長 井村正陽

俳句部会

第80回 萩句会報告

日時 2016年1月11日(月)14時～17時

(順不同)

川井素山	ガード下背 ^{せな} だけ見ゆる夜鳴そば
保井寶正	梵鐘に風花舞うや比叡山
青木英林	探梅の里に人影見当たらず
後藤克彦	墨一滴落ちて直しの賀状かな
佐久間喬	松の内巻きぐせまの Kalender
丸山酔宵子	歳重ね何が残るか実万両
菊地崇之	ママ心七種粥や暖簾下げ
牧野里山	西の市熊手の波が行き違ふ
佐久間たか子	探梅の歩き疲れてふと香る
佐伯武雄	多言語が飛び交う宵の初詣
吉田啓悟	津軽では五臓六腑の冬囲
大山龍海	七十路は雑煮祝いもしみじみと
山本草風	年の瀬や今年の懺悔墓掃除
金森純女	主なき小庭包むや木の芽雨

俳句は17音という制限の中で情景が目浮かぶように表現する。しかし情景の説明になってはいけない。季語によって作者の感じ取った情景をそのまま、あるいはそれ以上に伝えることができる。

季語の力(連想力)を信じることである。

また誰もが使っている言葉や言い回しは詩の一ジャンルである俳句の新鮮さを失わせるので嫌われる。

これらは句会での主宰の講評の一部です。

中原主宰が上記の中で特に良い句として選んだ句は以下の5句ですが、皆様の評価は如何でしょうか。

ガード下背だけ見ゆる夜鳴そば
梵鐘に風花舞うや比叡山
探梅の里に人影見当たらず
墨一滴落ちて直しの賀状かな
歳重ね何が残るか実万両

中原道夫主宰が句の選者をされている「新潟日報」の元日の紙面に寄せられた言葉と句をご紹介します。

『 民族闘争、宗教闘争、人間はちっぽけな存在を忘れて次々と悲しみや試練を生み出します。ちっぽけな俳句が増々心の拠り所となって来ています。』

天災にも強い俳句の避難所^{シェルター}を今年も。

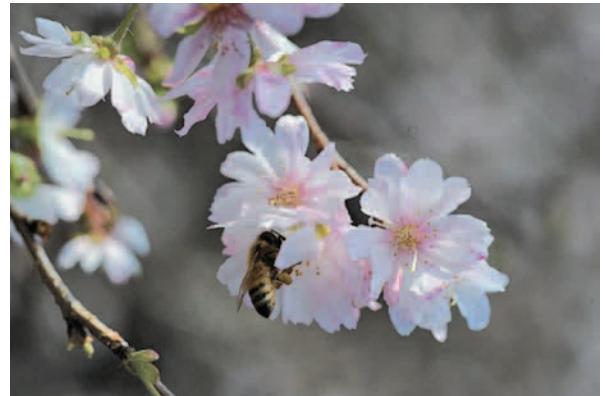
獅子舞に喰^{なみ}はせて凡の頭なり 』

俳句部会長 佐久間 喬

会員ギャラリー

「十月桜」

高野 孝 (昭和39年 理工)



新宿御苑には10月始めに咲き出し年を越して4月始めまで咲き続ける桜があります。子福桜と十月桜と冬桜です。新宿門から少し行った所にあるのが子福桜で小さな花を付けています。そこを通り過ぎて少し行った所にあるのが十月桜。少し小さいが写真の様に立派な花を咲かせています。この写真を撮ったのは2015年11月7日です。更に南に行って中の池の手前にあるのが冬桜。これも少し小さいが中々立派な桜です。池を越えて千駄ヶ谷門の左奥にあるのが2本目の十月桜。これは1本目の十月桜より大きく立派です。

桜が本格的に咲き出すのは、2月の寒緋桜からで3月中旬には陽光、3月下旬からは八重紅枝垂、4月には関山と云う様にほぼ7ヶ月に亘り私達を楽しませてくれます。

新入会員



奥村忠男 (昭和41年 政経)
(昭和43年 文)

(目黒区八雲在住)

趣味：読書 オペラ 旅行

昭和56年から平成20年まで
早稲田大学政治経済学部部の教員
として勤めました。深酒が祟り

昭和59年に糖尿病になり爾来インシュリンのお世話になっています。よろしく願いいたします。

編集後記

桜は一年中見られるんですね。高野 孝さんの「会員ギャラリー」を見て、初めて知りました。そういえば昨年12月、皇居の紅葉一般公開に行った時、立派な十月桜を見ました。

この会報が届く頃には、南から桜の便りも聞こえてきます。今年はどこへ出かけようか。(地田 記)